

# 令和7年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和7年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	60	49	39	7.1	14.3	学校	488
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	53	66.3	45.4	54.3	48.9	50.8	5.8	7.6	10.8	8.6	7.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	48.2	54.4	6.1	5.8	11.2	8.6	6.5
2月18日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4
2年	学校	65	55.4	33.2	39.0	33.7	34.7	8.2	6.5	13.7	6.7	10.5
	大阪市	—	65.2	42.6	56.0	47.9	52.4	6.6	6.1	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	43.5	55.0	46.7	51.8	7.3	6.4	11.7	5.0	7.6
1年	学校	50	60.7	43.9	49.7	45.2	55.3	10.7	3.0	8.3	3.3	6.9
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はB問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	57	107.9	96.1	132.0	94.3
10月24日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	80	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	27.53	26.14	36.64	50.28	83.94	—	8.06	194.00	20.94	39.94
	大阪市	28.65	26.88	43.47	51.81	80.13	—	8.06	195.07	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	—	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	21.50	26.04	8.24	50.59	55.82	—	9.39	178.05	14.48	50.67
	大阪市	23.13	22.68	10.21	48.59	53.05	—	9.03	166.78	12.19	48.11
	全国	23.15	21.70	10.99	45.74	50.60	—	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 大正中央中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

- ・国語・数学の平均正答率については、大阪市・全国より下回ったが、経年で見ると全国の値に近づきつつある。
- ・理科の平均IRTスコアについては、全国よりはやや下回っているが、大阪市とはほぼ同じであった。
- <国語>「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域については、正答率が全国に近づいてきたが、「書くこと」の領域は下回った。
- <数学>「数と式」の領域では正答率が全国を超えるものがあったが、「図形」・「関数」の領域は大きく下回った。
- <理科>「エネルギー」の領域では正答率が全国を超えるものがあったが、「地球」の領域ではやや下回るものもあった。

<生徒質問紙>

- ・「朝食を食べている」生徒の割合は、全国よりやや低い。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている生徒の割合は、全国より高い。
- ・「友達関係に(どちらかといえば)満足している」と思っている生徒の割合は、全国より5.3pも高い。
- ・「自分にはよいところがある」生徒の割合は、全国よりやや低い。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたい」生徒の割合は、全国より高い。
- ・学校の授業時間以外に、普段、ほとんどあるいはまったく読書をしないう生徒の割合は55.0%と、全国より13.2pも高い。
- ・家庭学習時間については、平日は全国より多くの時間学習しているが、休日に学習する時間は少ない。
- ・1日1時間以上学習する生徒・・・平日70.0%(+8.4p) 休日35.0%(−22.9p)
- ・授業で毎日ICTを使用した割合は全国より高いが、ICT機器を使って「情報を整理できる」と回答した生徒の割合は全国より20.0pも下回る。

○中学生チャレンジテスト[中学生チャレンジテストplus(1年生の理科・社会)]

<教科平均点>(学校/対大阪市比/対大阪府比)

【3年】国語(66.3/1.02/1.03) 社会(45.4/0.88/0.89 ※昨年度 40.4/0.81/0.82) 数学(54.3/1.00/1.01)

理科(48.9/1.01/1.02) 英語(50.8/0.93/0.95 ※昨年度 46.9/0.86/0.87)

・国語、数学、理科の3教科で、大阪市、大阪府平均より上回っている。社会、英語も、昨年度よりは大阪市、大阪府平均に近づいている。

【2年】国語(55.4/0.85/0.86) 社会(33.2/0.78/0.76) 数学(39.0/0.70/0.71) 理科(33.7/0.70/0.72) 英語(34.7/0.66/0.67)

・平均正答率ほどの教科も大阪府・大阪市を下回っており、特に記述式問題の正答率がかなり低い。

【1年】国語(60.7/0.96/0.96) 社会(43.9/0.75/一) 数学(49.7/0.86/0.88) 理科(45.2/0.70/一) 英語(55.3/0.83/0.85)

・平均正答率ほどの教科も大阪府・大阪市を下回っているが、国語の「話すこと・聞くこと」、数学の「図形」については、府を上回っている。

<アンケート(大阪府との比較)>

- ・文章や資料などを読むときにどこが大事なところか考えながら読んでいる生徒の割合は、上回っている。(3年:本校 94.6%/府 90.3%)
- ・学校などで、他の人と協力し合うことができると回答した生徒の割合は、上回っている。(2年:本校 95.6%/府 93.2%)
- ・わからないことや知りたいことがあったとき、調べている生徒の割合は、上回っている。(1年:本校 70.0%/府 65.9%)
- ・家で、自分の苦手なところ、必要などころを考えて勉強している生徒の割合は、どの学年もかなり下回っている。  
(3年:本校 69.1%/府 72.0% 2年:本校 47.1%/府 63.7% 1年:本校 50.0%/府 64.8%)
- ・社会的な出来事に関するニュースを見ている割合は、どの学年も下回っている。  
(3年:本校 58.1%/府 68.2% 2年:本校 58.8%/府 68.7% 1年:本校 64.0%/府 67.9%)
- ・普段、まったく本を読まない生徒の割合は、どの学年も上回っている。  
(3年:本校 52.7%/府 33.2% 2年:本校 55.9%/府 32.6% 1年:本校 32.0%/府 29.7%)
- ・1日平均3時間以上、学習以外(ゲームやSNSなど)にスマートフォンなどを使っている生徒の割合は、1・2年生で上回っている。  
(3年:本校 49.1%/府 55.2% 2年:本校 67.6%/府 56.8% 1年:本校70.0%/府 52.8%)

○大阪市英語力調査(GTEC)

- ・すべての項目において、対大阪市平均の9割程度となっている。
- ・CEFR A1レベルの生徒は50.0%と、昨年度よりも大幅に向上している。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

- ・男子は「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」の2種目で全国及び大阪市平均を上回ったほか、「50m走」で大阪市平均と同程度であった。
- ・女子は「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」「上体起こし」「反復横跳び」「立ち幅跳び」の5種目で全国及び大阪市平均を上回った。

【今後に向けて】

- ・体育授業や体育的行事、部活動等において、運動に対する日頃からの意識づけをしてきたことが功を奏し、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が向上した。今後も引き続き、多くの生徒が体を動かすことができるような工夫をしていく。
- ・各教科授業において主体的・対話的で深い学びの工夫を進めるとともに、相互授業参観等で指導力の向上を図ってきた。また、個別指導や放課後学習会等の実施による自主自律的な学びを促進してきたことが実を結び、3年生の学力については向上が見られた。今後もICT機器を活用した主体的・対話的な場面を多く取り入れるとともに、学習したことをふまえて社会的な出来事への関心を高めるなど、さらに深い学びにつなげる授業を工夫していく。
- ・校内では図書館の開館時間を増やすなど、読書環境を整備しているが、さらに読書活動の推進に向けて取り組んでいく。
- ・一方で、家庭での学習習慣の定着をめざし、学習動画やデジタル教材等の有効活用により、個に応じた家庭学習ができるよう支援していく。